

「みなとオアシス」とは

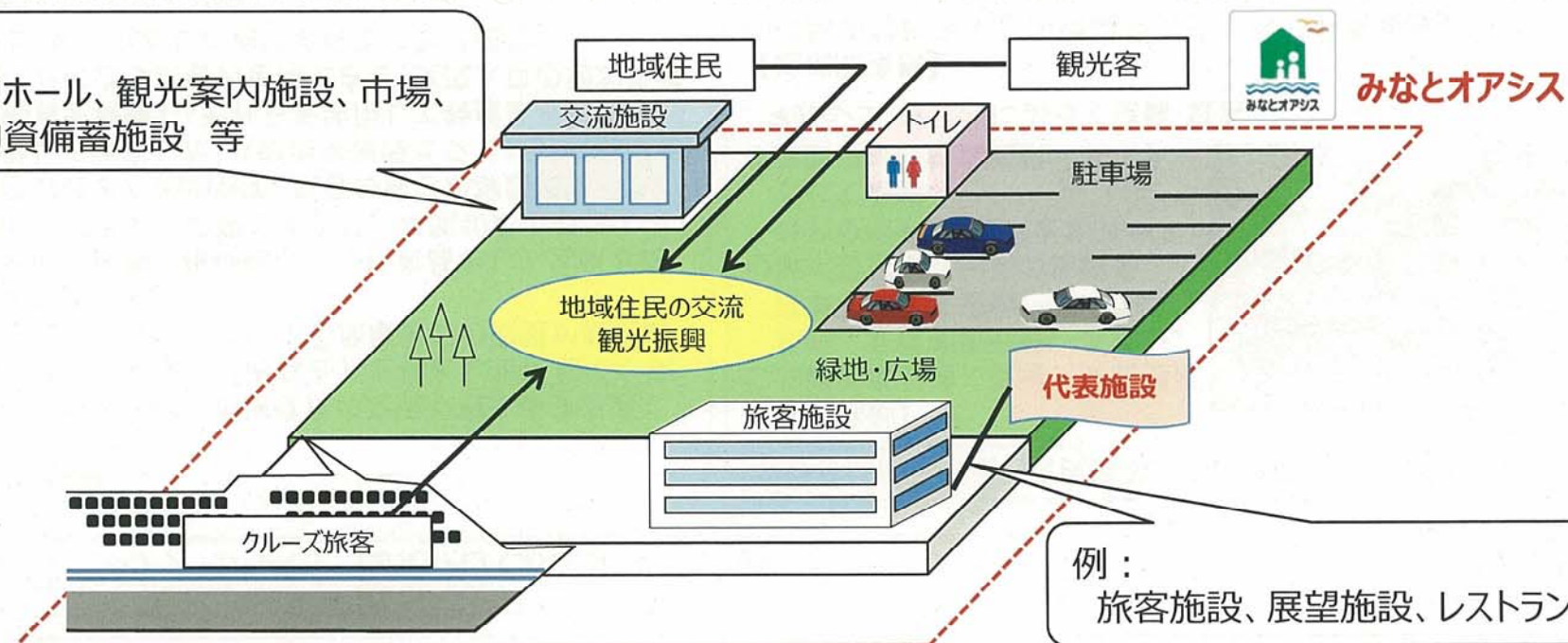
「みなとオアシス」とは、平成15年11月、中国地方整備局及び四国地方整備局において創設されたものであり、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が申請に基づき登録するもの。

※第1号登録として、平成16年1月に「みなとオアシス瀬戸田」(広島県尾道市)及び「鳥取・賀露(かる)みなとオアシス」(鳥取県鳥取市)の2件を同時登録。

みなとオアシスは、交流・休憩、情報提供、災害時支援、物販、飲食等を提供する施設から構成されています。規模や構成施設は、各みなとオアシスによって異なります。

例：

多目的ホール、観光案内施設、市場、
支援物資備蓄施設 等



例：

旅客施設、展望施設、レストラン 等

※みなとオアシスの構成施設は、各みなとオアシスによって様々であり、必ずしもこれら全ての施設を必要とするわけではありません。

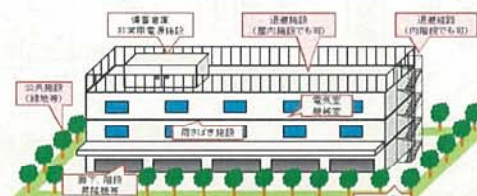
「みなとオアシス」への活用が見込まれる主な支援内容

地場産品市場拡大
マーケット調査、商品開発等



「地方創生推進交付金」

避難場所の整備



「特定民間都市開発事業
港湾民間拠点施設整備事業 等」

浮桟橋等の整備
高速船等発着場



「社会資本整備総合交付金 等」

多言語表記
(ピクトグラム含む)



「訪日外国人受入環境緊急整備事業」



緑地 (トイレ・駐車場等
を含む) の整備



「社会資本整備総合交付金 等」

臨時店舗の免税店化



「クルーズふ頭における臨時の免税店届出制度」

Wi-fi (無線LAN) の設置



「訪日外国人受入環境緊急整備事業」



旅客施設の整備



「民間事業者による港湾施設の建設等
に係る資金の無利子貸付制度」

「みなとオアシス」を活用した地域の魅力販売促進

「地方創生に係る特徴的な取組事例」より
内閣府地方創生推進事務局

事業の背景・概要

- みなとオアシスとは、地域住民の交流や観光振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、住民参加による地域振興の取組が継続的に行われる施設。
- 八幡浜市は水産物や柑橘類などを特産品とし、九州と四国を連絡する海上交通の要であるが、年間40万人のフェリー利用者の殆どが通過客で、集客の弱さが課題であった。
- 官民協働して策定した「八幡浜港振興ビジョン」に基づき、港や交流拠点を整備し、それらを活用して特産品販売やイベント開催などにより集客力を向上させ、交流人口の増加を図り、「みなと」を中心とした地域活性化に取り組む。



むかしの八幡浜港



現在の八幡浜港の様子 (H27.5)

重要業績評価指標 (KPI) 等

- 「みなとオアシス八幡浜みなと」年間来訪者数約102万人<平成31年度>
- 年間来訪者数 現状維持

先駆性に係る取組 (官民協働、地域間連携、政策間連携等)

【官民協働】

- 八幡浜市が港、緑地、交流拠点施設、海産物直売所、トイレ、駐車場などを整備。
- 市が整備した一連の施設をNPO法人が「みなとオアシス」として運営。
- 産直・物販・飲食施設「アゴラマルシェ」は民間によって整備・経営。



【地域間連携】

- 航路の対岸地域との物販や交流イベントを多数実施し、周辺地域の販路開拓の場として活用されている。

【専門人材の育成・確保】

- 「みなとまちづくりマイスター」による、みなとまちづくり後継者の育成。

自立への道筋

- 民間が経営している産直・物販・飲食施設などの売り上げは、順調に増加しており、そのテナント料によって自立経営を行っている。
- 「みなとオアシス」として、海の食材を使った「港弁」を独自に開発し普及に取り組む。

参考となるポイント

- ①官民一体となつての地域課題の把握、検討のもと、施設整備、運営を官民で分担し、地域全体の活性化を図る。
- ②運営を民間団体が行うことで、顧客目線に立った地場産品の振興を図る。また、テナント料による自立経営を実現している。
- ③地域産品の販売のプラットフォーム、アピールの場としての機能も果たしている。

みなとオアシスの活動（サイクリングポートみなとオアシス尾道）

～「みなと」を拠点にしたスポーツアクティビティ～

- 尾道から今治市の全長約70kmを結ぶ瀬戸内しまなみ海道サイクリングロードは、日本で初めて海峡を横断できる自動車道で、世界中のサイクリストが訪れている。
- 起・終点となる尾道にある「ONOMICHI U2」は、老朽化の進んだ貨物上屋を、ホテル、レストラン、サイクルショップ等の複合施設として改修した施設であり、サイクリングロードの拠点としての役割を担っている。
- 国土交通省港湾局は、観光客やクルーズ旅客等が交流・活動する場を提供する施設を「みなとオアシス」として登録しており、「ONOMICHI U2」は「サイクリングポートみなとオアシス尾道」の代表施設である。

運営者	(一社)尾道観光協会
設置者	尾道市
登録日	平成22年3月21日(地整) 平成29年2月9日(本省)
港湾	尾道系崎港 (港湾管理者:広島県)
構成施設	尾道ポートターミナル、しまなみ交流館、 西御所県営上屋、東御所緑地

〈瀬戸内しまなみ海道サイクリングロード〉



※瀬戸内しまなみ海道にある「サイクリングロード」は、日本で初めて海峡を横断できる自転車道で、尾道市から今治市の間の全長約70kmを結ぶ。

〈多くのサイクリストを受け入れる施設の例〉



【施設イメージ】



世界中のサイクリストが集まるサイクリングロード



サイクリングロードの拠点としての役割



自分の自転車と宿泊できるホテル室内

みなとオアシスSea級グルメ全国大会 開催状況

平成23年度より、「みなとオアシス全国協議会」の主催により、「みなとオアシス」が位置する地元の食材や、地元産品でつくられた“Sea”の要素を含む「Sea級グルメ」を全国各地から持ち寄り、食の大会を開催している。

みなとオアシス三原

【第1回】広島県三原市
(開催日)平成23年7月30日(土)・31日(日)
(参加数)15箇所(他3箇所が応援出店)
(来場者)1万3千人



グランプリ たまごめし
みなとオアシス三原

「届けよう希望の光・夢・未来」をスローガンに東日本大震災復興支援イベントの一つとして開催

いわき小名浜みなとオアシス

【第2回】福島県いわき市
(開催日)平成24年10月6日(土)・7日(日)
(参加数)16箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)8万3千人



グランプリ いわきカキメシ
いわき小名浜みなとオアシス

震災復興を願った「いわき小名浜みなとフェスティバル」の中心的なイベントとして開催

みなとオアシス苫小牧

【第3回】北海道苫小牧市
(開催日)平成25年7月13日(土)・14日(日)
(参加数)16箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)5万人



優勝
「セキゴカシ」
みなとオアシス八幡浜みなと

苫小牧港開港50周年記念事業のイベントの一つとして開催

みなとオアシスかんたん港園

【第4回】大分県大分市
(開催日)平成25年8月24日(土)・25日(日)
(参加数)18箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)2万2千人



グランプリ たまごめし
みなとオアシス宇野

地域のイベント(食彩OITA かんたん港園食堂)と同時開催

みなとオアシス瀬戸田

【第5回】広島県尾道市
(開催日)平成26年7月19日(土)・20日(日)
(参加数)17箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)1万7千人



多量のみ焼き
(みなとオアシス瀬戸田)

隣接する海浜(サンセットビーチ)の海開きに合わせて開催

みなとオアシスみやこ

【第6回】岩手県宮古市
(開催日)平成27年9月19日(土)・20日(日)
(参加数)14箇所(他1箇所が応援出店)
(来場者)2万4千人



グランプリ 真崎焼き
(みなとオアシスみやこ)

宮古港開港400周年記念事業のイベントの一つとして開催

みなとオアシスとば

【第7回】三重県鳥羽市
(開催日)平成27年10月31日(土)・11月1日(日)
(参加数)14箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)2万2千人



グランプリ かつおめし
(みなとオアシスとば)

伊勢志摩国立公園指定70周年記念イベントとして開催

みなとオアシス宇野

【第8回】岡山県玉野市
(開催日)平成28年7月23日(土)・24日(日)
(参加数)14箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)6万6千人



グランプリ たまごめし
みなとオアシス宇野

第20回たまの港フェスティバルの記念イベントとして開催

みなとオアシ스가まごおり

【第9回】愛知県蒲郡市
(開催日)平成28年10月1日(土)・2日(日)
(参加数)22箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)6万8千人



グランプリ たまごめし
みなとオアシス宇野

蒲郡港開港50周年記念イベントとして開催

みなとオアシス魚津

【第10回】富山県魚津市
(開催日)平成29年10月14日(土)・15日(日)
(参加数)22箇所(他2箇所が応援出店)
(来場者)3万8千人



グランプリ 魚津バイパス
みなとオアシス魚津

みなとオアシス魚津の認定10周年記念イベントとして「○○魚津」と同時開催